



平成28年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年7月30日

上場取引所 東

上場会社名 インヴァスト証券株式会社

コード番号 8709 URL <http://www.invast.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 川路 猛

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員

(氏名) 田村 信司

TEL 03-3595-0423

四半期報告書提出予定日 平成27年8月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第1四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		純営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第1四半期	969	92.8	969	92.8	97	—	90	—	28	—
27年3月期第1四半期	502	△65.9	502	△65.9	△513	—	△495	—	△9	—

(注) 包括利益 28年3月期第1四半期 17百万円 (—%) 27年3月期第1四半期 △433百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第1四半期	4.94	4.93
27年3月期第1四半期	△1.64	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第1四半期	86,119	11,505	13.4
27年3月期	87,268	11,903	13.6

(参考) 自己資本 28年3月期第1四半期 11,503百万円 27年3月期 11,902百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	71.00	71.00
28年3月期	—	—	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成28年3月期(予想)配当金は、現時点において未定です。

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

当社の主力サービスである外国為替証拠金取引は、外国為替市場や株式市場等の市況、その他国内外の経済環境等に大きく左右される傾向にあり、業績予想が困難であるため、業績予想の開示は行っていません。

その代替として、営業収益等の営業指標を月次概況として開示しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 —社 (社名) 、 除外 —社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 5「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 会計方針の変更」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

28年3月期1Q	5,904,400 株	27年3月期	5,904,400 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

28年3月期1Q	36,500 株	27年3月期	36,500 株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期1Q	5,867,900 株	27年3月期1Q	5,824,893 株
----------	-------------	----------	-------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成28年3月期の配当予想額は現時点において未定であり、今後の業績等を勘案し見通しが立った時点で開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
会計方針の変更	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかながら回復基調が継続しています。

雇用環境の改善や企業収益の拡大に伴い実質所得も増加傾向となっており、これに伴い、5月の実質消費支出も1年2ヶ月ぶりに前年同月を上回りました。2014年4月の消費増税以降、駆け込み需要の反動が支出を抑えていましたが、その影響も和らいだ感があり、住宅リフォームなどの住居関連や白物家電などの支出が持ち直しました。ただ一方、外需では、景気の減速傾向が顕著な中国やギリシャの動向が懸念されている欧州向けの輸出が低迷し、2015年5月の実質輸出は前月比マイナス5%と、3ヶ月ぶりに低下することとなりました。

今後の国内景気は、リーマンショック前の水準まで回復している企業収益を背景とした旺盛な設備投資や雇用環境の更なる改善が見込まれており、次第に底堅さを増す展開が期待されています。

外国為替市場のドル円相場は、序盤こそ120円を中心としたレンジ相場となりました。

しかし、5月の中旬以降は、好調な米経済指標を背景とした米国の利上げ期待からドルの上昇傾向が強まるなか、6月5日の米雇用統計が良好な数字となるとドル円は年初来高値を更新し、一時125.80円台まで上昇しました。その後は黒田日銀総裁の急ピッチな円安をけん制する発言や、ギリシャへの金融支援の打ち切りから同国のEU脱退への思惑が台頭し、ドル円は一時121円台に下落する場面もありました。

株式市場は、良好な企業収益や為替の円安基調などを受けて上値を切り上げ、6月24日には日経平均が一時20,900円台と約18年半ぶりの高値をつけました。

このような経済状況のもとで、当社グループの当第1四半期連結累計期間の営業収益は9億69百万円(前年同四半期比192.8%)、純営業収益は9億69百万円(同192.8%)となりました。

また、販売費・一般管理費は全体で8億72百万円(同85.8%)となり、この結果、純営業収益から販売費・一般管理費を差し引いた営業利益は97百万円(前年同四半期は5億13百万円の営業損失)、経常利益は90百万円(前年同四半期は4億95百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は28百万円(前年同四半期は9百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

なお、当社単体での営業利益は1億67百万円(前年同四半期は3億97百万円の営業損失)、経常利益は1億67百万円(前年同四半期は3億75百万円の経常損失)、四半期純利益は1億6百万円(同96.7%)となりました。

セグメントの業績概況は次のとおりであります。

詳細は、「注記事項(セグメント情報等)」をご参照ください。

セグメント名称		事業の内容	会社
報告 セグメント	取引所FX取引	「くりっく365」	インヴァスト証券㈱
	店頭FX取引	「FX24」、「シストレ24」、 「トライオートFX」	インヴァスト証券㈱
	海外金融事業	店頭FX、店頭CFD、証券取引	Invast Financial Services Pty Ltd.
その他		「くりっく株365」	インヴァスト証券㈱

① 取引所FX取引

取引所FX取引は、東京金融取引所におけるFX取引サービス「くりっく365」の提供を行っております。

当第1四半期連結累計期間における「くりっく365」の出来高は、前年同四半期と比較し微増にとどまったものの、昨年8月以降の売買手数料の引き上げ等の施策により、営業収益は大幅に増加する結果となりました。

そのため、取引所FX取引による純営業収益は2億83百万円(前年同四半期比152.5%)となり、セグメント利益は44百万円(前年同四半期は70百万円のセグメント損失)となりました。

② 店頭FX取引

店頭FX取引は、「FX24」、「シストレ24」及び「トライオートFX」の提供を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、オートパイロット型裁量FX「トライオートFX」におけるスプレッド縮小等が功を奏し、取引が活発化しました。

6月には「トライオートFX」及びFX自動売買サービス「シストレ24」の総口座数が合わせて10万口座を突破する等、口座数も順調に拡大いたしました。

こうして、店頭FX取引(FX24・シストレ24・トライオートFX)による純営業収益は5億87百万円(前年同四半期比207.6%)となり、セグメント利益は1億20百万円(前年同四半期は3億26百万円のセグメント損失)となりました。

③ 海外金融事業

海外金融事業においては、オーストラリアの子会社Invast Financial Services Pty Ltd. (以下「IFS」といいます。)が店頭FX取引、店頭CFD取引及び証券取引を行っております。

IFSの決算日は12月31日となっているため、当第1四半期連結累計期間においては、平成27年1月から3月までの実績を反映しております。

IFSでは、昨年12月からの新サービス取引所約定型個別株証拠金取引「DMACFD」が本格寄与し、サービス開始前と比較して全社預り資産が約1.6倍に増加いたしました。

こうして、海外金融事業の純営業収益は89百万円(前年同四半期比339.1%)となり、セグメント損失は69百万円(前年同四半期は1億15百万円のセグメント損失)となりました。

④ その他

その他の事業「くりっく株365」等による純営業収益は19百万円(前年同四半期比238.0%)となり、セグメント利益は1百万円(前年同四半期は1百万円のセグメント損失)となりました。

主要な収益・費用等の状況は次のとおりであります。

① 受入手数料

当第1四半期連結累計期間の受入手数料の合計は2億49百万円(前年同四半期比220.9%)となりました。内訳は以下のとおりであります。

・取引所為替証拠金取引に係る受入手数料	1億79百万円(同177.4%)
・委託手数料	15百万円(同275.2%)
・投資顧問料	10百万円(同181.6%)
・その他の受入手数料	43百万円(同92445.5%)

② トレーディング損益

当第1四半期連結累計期間におけるトレーディング損益は、6億8百万円(前年同四半期比205.7%)の利益となりました。これは店頭FX取引等によるものであります。

③ 金融収支

当第1四半期連結累計期間における金融収益は、7百万円(前年同四半期比155.4%)となりました。主な発生要因は預金利息によるものであります。

④ 販売費・一般管理費

当第1四半期連結累計期間における販売費・一般管理費は、8億72百万円(前年同四半期比85.8%)となりました。主な内訳は以下のとおりであります。

・取引関係費	2億9百万円(同52.0%)
・人件費	2億36百万円(同111.9%)
・不動産関係費	2億73百万円(同111.5%)
・事務費	9百万円(同92.3%)
・減価償却費	89百万円(同80.2%)
・租税公課	20百万円(同83.9%)
・その他	32百万円(同322.8%)

⑤ 営業外収益

当第1四半期連結累計期間においては0百万円の営業外収益を計上しており、その内訳は以下のとおりであります。

・受取配当金	0百万円
・その他	0百万円

⑥ 営業外費用

当第1四半期連結累計期間においては7百万円の営業外費用を計上しており、その内訳は以下のとおりであります。

・為替差損	6百万円
・株式公開費用	0百万円

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して11億48百万円減少し861億19百万円となりました。

流動資産は10億80百万円減少し843億41百万円となりました。

流動資産の主な減少項目は、外為取引未収入金の減少2億59百万円のほか、顧客分別金信託が10億円減少しております。一方、主な増加項目は、短期差入保証金の増加80百万円であります。

また、固定資産は、前連結会計年度末と比較して67百万円減少し17億77百万円となりました。

これはソフトウェア等の資産の新規取得があったものの、減価償却費89百万円を計上したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は746億14百万円となり、前連結会計年度末に比べ、7億49百万円減少しました。流動負債は、7億40百万円減少し743億96百万円となりました。

流動負債の主な減少項目は、受入保証金の減少6億41百万円、外為取引未払金の減少1億84百万円であります。固定負債は、前連結会計年度末に比べ9百万円減少し1億88百万円となりました。

特別法上の準備金は、29百万円となりました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は115億5百万円となり、前連結会計年度末と比較して3億98百万円減少しました。主な減少要因は配当金の支払いによる4億16百万円であり、主な増加要因は親会社株主に帰属する四半期純利益28百万円の計上であります。

この結果、自己資本比率は13.4%（前連結会計年度末は13.6%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの主力サービスである外国為替証拠金取引は、外国為替市場や株式市場等の市況、その他国内外の経済環境等に大きく左右される傾向にあり業績予想が困難であるため、業績予想の開示は行っておりません。

その代替として、営業収益等の営業指標を月次概況として開示しております。

2. サマリー情報 (注記事項) に関する事項

会計方針の変更

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を当第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更を行っております。

当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金	2,636	2,640
預託金	16,668	15,743
顧客分別金信託	3,005	2,005
顧客区分管理信託	13,627	13,702
その他の預託金	36	36
短期差入保証金	59,859	59,940
外為取引未収入金	6,089	5,829
繰延税金資産	17	20
その他	151	167
貸倒引当金	△0	△0
流動資産計	85,422	84,341
固定資産		
有形固定資産	194	177
無形固定資産	746	693
投資その他の資産	904	906
投資有価証券	635	646
関係会社出資金	-	23
その他	286	271
貸倒引当金	△17	△34
固定資産計	1,845	1,777
資産合計	87,268	86,119
負債の部		
流動負債		
受入保証金	69,734	69,093
外為取引未払金	4,967	4,783
未払法人税等	38	65
役員賞与引当金	7	8
賞与引当金	32	24
その他	356	421
流動負債計	75,137	74,396
固定負債		
繰延税金負債	15	21
その他	181	166
固定負債計	197	188
特別法上の準備金		
金融商品取引責任準備金	29	29
特別法上の準備金計	29	29
負債合計	75,364	74,614

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,965	5,965
資本剰余金	2,313	2,313
利益剰余金	3,612	3,224
自己株式	△44	△44
株主資本合計	11,847	11,459
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	49	57
為替換算調整勘定	5	△13
その他の包括利益累計額合計	55	44
新株予約権	1	1
純資産合計	11,903	11,505
負債・純資産合計	87,268	86,119

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)
営業収益		
受入手数料	112	249
取引所為替証拠金取引に係る受取手数料	101	179
委託手数料	5	15
投資顧問料	5	10
その他の受入手数料	0	43
トレーディング損益	295	608
金融収益	5	7
その他の営業収益	89	103
営業収益計	502	969
金融費用	-	-
純営業収益	502	969
販売費・一般管理費		
取引関係費	402	209
人件費	211	236
不動産関係費	245	273
事務費	10	9
減価償却費	111	89
租税公課	24	20
その他	10	32
販売費・一般管理費計	1,016	872
営業利益又は営業損失(△)	△513	97
営業外収益		
受取配当金	17	0
為替差益	2	-
その他	0	0
営業外収益計	21	0
営業外費用		
自己株式取得費用	0	-
株式公開費用	0	0
為替差損	-	6
その他	1	-
営業外費用計	2	7
経常利益又は経常損失(△)	△495	90
特別利益		
投資有価証券売却益	525	-
金融商品取引責任準備金戻入	19	-
特別利益計	545	-
特別損失		
投資有価証券売却損	3	-
特別損失計	3	-
税金等調整前四半期純利益	47	90
法人税、住民税及び事業税	0	63
法人税等調整額	56	△1
法人税等合計	56	61
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△9	28
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△9	28

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△9	28
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△424	7
為替換算調整勘定	△0	△18
その他の包括利益合計	△424	△11
四半期包括利益	△433	17
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△433	17

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	取引所F X 取引	店頭F X 取引	海外金融 事業	計				
純営業収益	185	282	26	494	8	502	—	502
セグメント損失 (△)	△70	△326	△115	△512	△1	△513	—	△513

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、取引所株価指数証拠金取引(くりっく株365)事業を含んでおります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書上の営業損失と一致しておりますので、調整額を計上していません。したがって、セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失を表しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	取引所F X 取引	店頭F X 取引	海外金融 事業	計				
純営業収益	283	587	89	960	19	979	△9	969
セグメント利益 又は損失(△)	44	120	△69	95	1	97	—	97

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、取引所株価指数証拠金取引(くりっく株365)事業を含んでおります。

2. 純営業収益の調整額△9百万円は親子会社間の内部取引の相殺であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書上の営業利益と一致しておりますので、調整額を計上していません。したがって、セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益又は損失を表しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(事業セグメントの利益又は損失の測定方法の変更)

当第1四半期連結会計期間より、報告セグメント別の経営成績をより適切に反映させるため、各セグメントの純営業収益において取引所清算手数料等の取引関係費を相殺した上で調整額として表示する方法から、当該金額を相殺せずに表示する方法に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間の「報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」は、変更後の利益又は損失の測定方法により作成したものを開示しております。